



近江は自然と歴史の宝庫です。秋も極まる今日この頃、テーマをもって琵琶湖一周紅葉狩りの旅に出かけてみませんか。例えば、近江発祥の武家の名門・京極氏ゆかりの地を訪ねてみてはいかがでしょう。

京極氏は宇多天皇の子孫を称する近江源氏佐々木氏の一族です。鎌倉時代に興り、室町幕府の創業期に京極道誉（佐々木高氏）が活躍したことから、子孫は幕閣に列し出雲や隠岐（島根県）、飛騨（岐阜県）等の守護職を務めるとともに、同族の六角氏が守護職を独占する近江においても北部を中心に絶大な影響力を持つこととなりました。

■ 京極氏ゆかりの地巡り 紅葉の名所と重なる



近江における京極氏ゆかりの地としては、第一に鎌倉時代以来の所領・柏原荘（米原市柏原周辺）があげられます。室町時代に道誉が犬上郡甲良庄（甲良町）をたいそう気に入って移り住み、勝樂寺（同町正楽寺）に葬られることもありましたが、柏原荘は後々の時代まで京極氏のふるさとと認識されました。

戦国時代に至ると、京極氏は米原市上平寺を拠点とします。京極氏館跡の発掘調査では、庭園を伴った御殿跡が見つかっています（史跡京極氏遺跡）。そして、浅井氏が台頭すると、京極氏は小谷城（史跡小谷城跡、長浜市湖北町伊部ほか）に移りますが、浅井氏の滅亡後、近江の武家の名門として復活を果たしま

す。時の当主高次は豊臣秀吉の側室であった妹竜子の力添えもあり、大溝城（高島市勝野）、八幡山城（近江八幡市宮内町）、大津城（大津市浜大津）の各城主を歴任し、関ヶ原合戦時に徳川家康に味方して戦功をあげました。

江戸時代の京極氏は、高次この功もあって全国各地で大名家として繁栄しました。

京極氏ゆかりの地は、多くが紅葉の名所と重なりますが、その第一は徳源院でありましょうか。

（県文化財保護課・北村圭弘）



徳源院と京極家墓所を紹介するびわこデジタルストーリーのホームページはこちらから

● 県指定名勝の徳源院庭園
● 県指定有形文化財の徳源院三重塔
|| いずれも米原市清滝で



これまでの「しが旅のススメ」はこちらから

【アクセス情報】徳源院へはJR柏原駅より徒歩約25分。名神高速関ヶ原インターチェンジ（IC）または北陸自動車道米原ICより約15分。無料駐車場あり。普通車約20台、大型バス3台（バスは要予約。道幅が狭いので注意）。